



香曾我部義則先生の今月のカルテ ⑤8

慢性痛とペインクリニック

■プロフィール こうそがべ・よしのり 昭和54年に岡山大学医学部卒業後、同大学麻酔科・蘇生科講師、岡山労災病院麻酔科第一部長に、平成16年から現職。日本麻酔学会専門医、日本ペインクリニック学会認定医、現在日本麻酔学会、日本ペインクリニック学会、日本慢性疼痛学会、国際疼痛学会などに所属

梶木病院麻酔科・ペインクリニック科の香曾我部義則先生が、痛みの治療について説明してくれるコラム。最先端の医療技術を用い原因すら分からないことが多い「痛み」。多くの人を経験する「腰痛」を例に、考えられるさまざまな要因について解説してくれます。

最近の研究で、腰痛の多くは心理的・社会的要因が強く関与していることが分かっています

痛みには必ず原因がある。原因は容易に判明できる？原因が分かれば治療法がある？治療が適切になされれば痛みから解放される？

答えは残念ながら必ずしもイエスとは言えません。高度先進医療技術を持つにしても痛みの原因が見つからない、原因が分かっても治療法が無い、治療が正しく行われても痛みが軽減しないこととはよくあります。痛みの科学はまだまだ発展途上なのです。

多くの方が経験する腰痛の80%が原因不明と言われ驚かれるでしょうか。実際に腰部の画像診断ではっきりと異常が判明する腰痛はさほど多くありません。腰痛は人間が立って歩くように進化

が立って歩くように進化するための宿命といわれますが、その裏付けには十分な証拠は無く、馬や犬といった四足動物にも椎間板(ついかんばん)ヘルニアや脊管狭窄症(せきちゆうかんきょう) (せきちゆうかんきょう)は認められ、それに伴う神経症状も起こります。また姿勢が腰痛の原因と考え、背骨あるいは骨盤のゆがみの矯正が効果を示すとの主張もありますが、正しい姿勢とは何か、この事さえいまだに解明されていません。とはいえ、腰が痛くなるとどうしたらいいでしょうか。圧痛があったり、腰を使う動作で痛みが生じたり、下肢にも痛みが出る場合、脊椎(せ

数多くあります。

そのような腰痛の代表が筋性腰痛、椎間関節性腰痛です。また坐骨神経痛を伴う腰痛は梨状筋症候群や子宮内臓症、卵巣嚢腫(のうしゅ)などの婦人科疾患で生じます。腎部(でんぶ)に近い部位の痛みは仙腸関節由来の腰痛として起こります。

最近の研究によると、腰痛症の多くは心理的・社会的要因が強く関与していると思われ、今後はこの方面からの解明が進むと思われます。しかし、心性性症例の場合、患者および患者背景などの診療や調査は難しく、ようやく手がかりがつかめたと云える段階です。

次回(1月31日号)は、これら腰痛および治療法について説明します。

梶木病院(西花尻)
☎(093)3335540